

# 「富岡町におけるイノシシ中の放射性物質濃度評価;地域振興のためのモデルケース作り」 2019年度事業の概要

国立大学法人長崎大学 連携市町村:富岡町

現地拠点:双葉郡富岡町本岡王塚622-1

## 事業のポイント

東京電力福島第一原子力発電所事故後、全域避難を余儀なくされ、その後2017年4月に帰還を果たした福島県双葉郡富岡町において、富岡町役場との連携のもと、町内で捕獲したイノシシ中の放射性物質濃度を測定することによって、環境への放射能影響及び、イノシシを食した際の内部被ばく線量の評価を実施する。そして、得られた結果をもとにして、住民、行政、地元企業や専門家と共に、イノシシによる被害管理・利活用に関して検討していくことで、地域の課題に密接した地域支援だけでなく、富岡町の住民、行政、企業、専門家が連携して復興創生していく地域振興に向けた取り組みへと展開するものである。

## 2019年度の活動内容

関係者がそれぞれの役割をもって、イノシシを用いた環境放射能影響評価を実施する。

- ① 狩猟会によって、約200検体のイノシシの捕獲を実施する
- ②③ 狩猟会によって捕獲されたイノシシから処理業者が測定用の筋肉100gを採取する
- ④⑤ 大学がゲルマニウム半導体検出器を用いて筋肉中の放射性核種濃度分析を実施し、内部被ばく線量を評価する。
- ⑥⑦ 結果を富岡町の住民へ還元する。得られた結果をもとに、住民、行政、地元企業、専門家等と共に、被害管理のあり方及び利活用を検討し、検討した結果をまとめる。

## 取り組みによって得られる成果

- イノシシの環境への放射能影響の評価により、被害管理のあり方や利活用を検討するためのエビデンスを構築する
- 住民、行政、企業と専門家等が協力してイノシシの被害管理の在り方等を検討することで、イノシシの特性等を把握しながら適切な被害防止対策の取り組みを進めることが可能となる

## 活動内容の流れ

